

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-42
研究課題名 副腎腫瘍の悪性度・予後に関する病理学組織的検討
研究期間 西暦 2014年 5月（倫理委員会承認後）～ 2019年 4月
対象材料 <input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 副腎 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ） 上記材料の採取期間 西暦 1998年 1月～ 2014年 3月の期間、副腎腫瘍と診断され、もしくは副腎腫瘍が疑われて東北大学病院にて副腎切除術を受けた患者
意義、目的 副腎腫瘍の良悪性の決定は、臨床経過や Weiss criteria などの病理組織学的評価で行われる。一方、免疫組織化学的なバイオマーカーとして Ki67 陽性率、EGFR などの細胞増殖に関する因子を用いた報告がされている。しかし、悪性副腎腫瘍の1つである副腎皮質癌の発症頻度は極めてまれであり、それらの因子の発現に関する検討が十分になされているとは言い難い。本研究では、本学を含む複数施設の副腎腫瘍検体においてそれらの因子の免疫染色での発現と腫瘍の悪性度、予後、ならびにステロイドホルモン産生能との相関を明らかにすることを目的とする。さらに、コンピューター上で陽性細胞数/率を自動的に解析するソフトウェアを用いることで、その評価をより客観的に行う予定である。
方法 1. すでにパラフィンブロックを作成された副腎組織（副腎腫瘍と診断されもしくは副腎腫瘍が疑われて副腎切除術を受けた症例）を用いて、細胞増殖に関わる因子（Ki67、p53、cyclin D1、EGFR）および副腎皮質腫瘍に発現しうるステロイドホルモン合成酵素（HSD3B、CYP17、CYP11B1、CYP11B2、SULT2A1、HSD17B5、aromatase）の発現状況を免疫染色で検索する。それらの陽性細胞数/率は、アペリオ社の解析ソフトである HALO を用いて検討する 2. 以上の各因子の陽性細胞数/率と臨床病理学的因子等との相関を検討する。 3. 遺伝子検索は行わない。
問い合わせ・苦情等の窓口 中村保宏 東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1 TEL: 022-717-8050